

経営比較分析表（令和5年度決算）

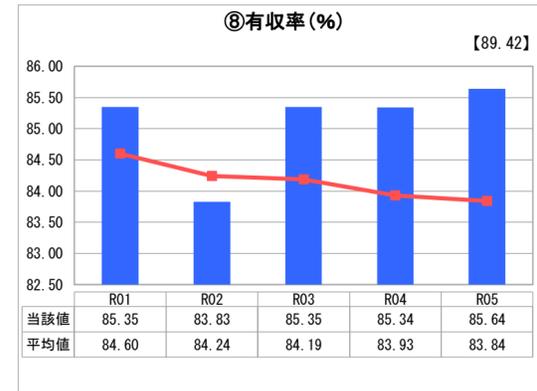
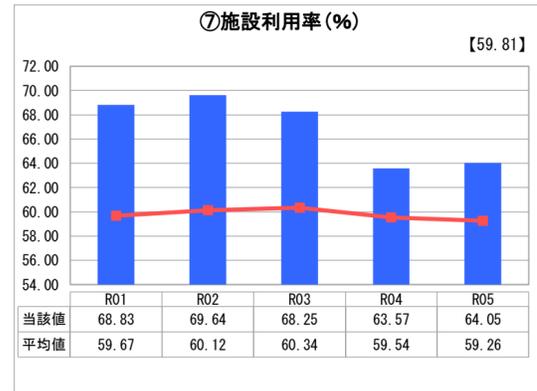
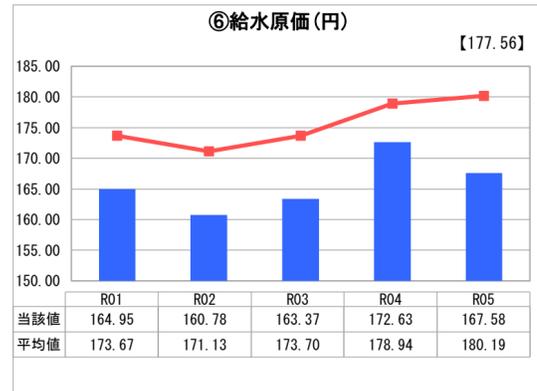
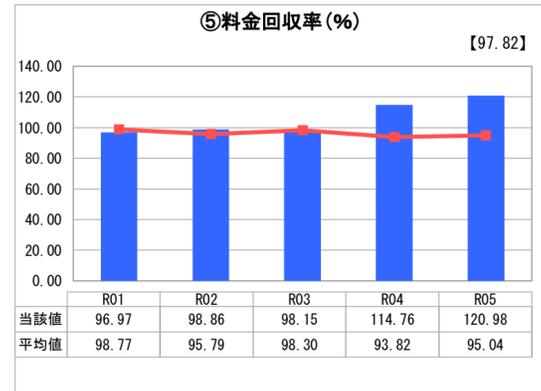
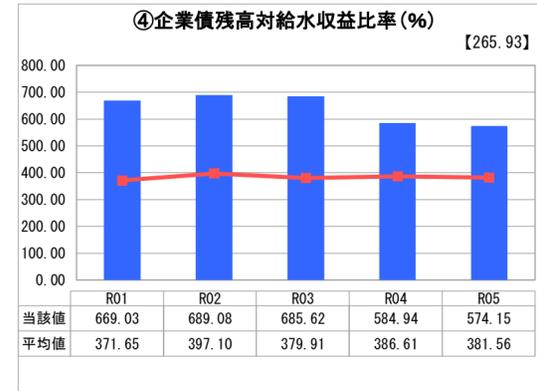
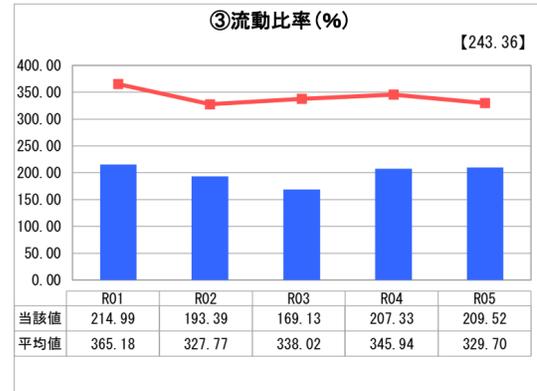
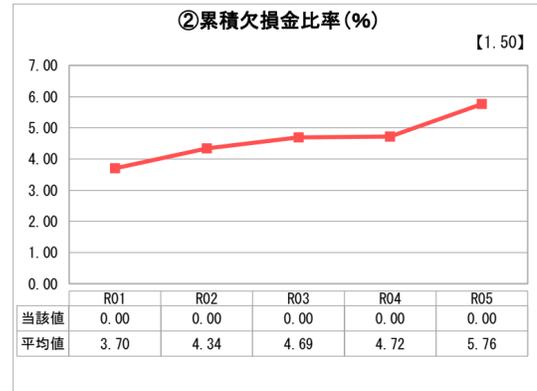
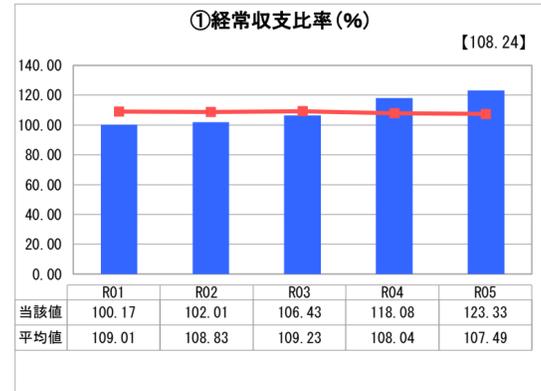
宮崎県 日南市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	47.92	96.38	3,531	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
49,037	535.49	91.57
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
46,890	74.34	630.75

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
□	令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

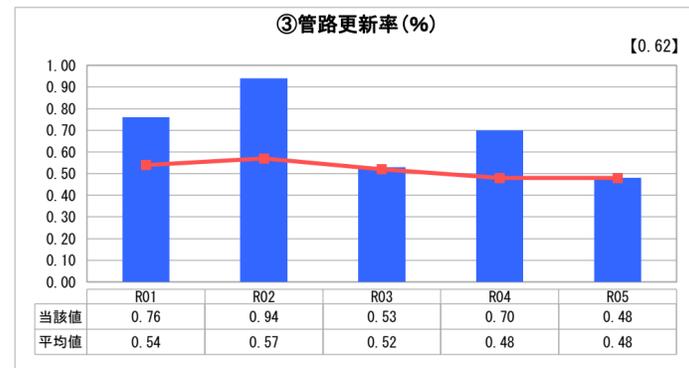
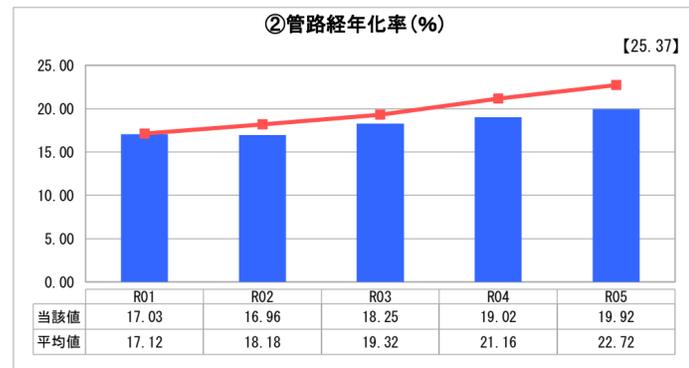
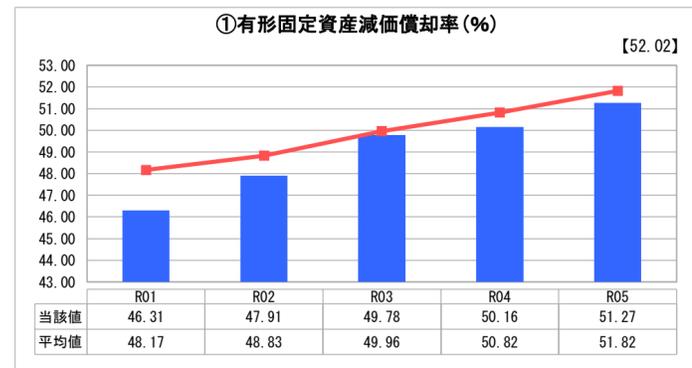
1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、約123%です。令和4年5月より料金改定を行ったことが主な理由です。
 ② 累積欠損金はありません。
 ③ 流動比率は約210%です。100%は超えているものの、類似団体・全国平均より比率が少ないことから、さらなる資金確保や経費削減などの経営改善が必要です。
 ④ 企業債残高対給水収益比率は、約574%で、類似団体・全国平均よりも非常に高くなっています。経営戦略の計画に基づき、元金償還額を超える借入れは行わないことで、昨年よりも減少しましたが、今後も水道施設の一元化、耐震化、老朽管更新事業等の実施により起債借入を行うため、高い水準で推移する見込みです。
 ⑤ 料金回収率は、約121%です。昨年度に比べ改善しましたが、令和4年5月からの料金改定が主な理由です。引き続き、経費の削減はもとより収益の確保策についても経営改善を行います。
 ⑥ 給水原価は、約168円です。エネルギー価格の上昇や人件費の高騰による影響がありましたが、全体的な経費の縮減に努め、昨年度より製造コストを抑制することができました。
 ⑦ 施設利用率は約64%です。人口減少により、利用率が減少していますが、今後は、施設の統合などを予定しており、施設の有効活用を推進いたします。
 ⑧ 有収率は約86%です。漏水調査などを引き続き実施し、今後も効率的な運営に努めます。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は約51%です。年々増加しており、老朽化が進んでいます。管路施設の更新を行い、改善に努めます。
 ② 管路経年変化率は、約20%となっています。年々老朽化が進んでいますが、更新事業を継続的に進め、改善に努めます。
 ③ 管路更新率は、約0.5%です。水道施設の一元化事業を最優先に行っていることから、更新事業については、当面は横ばいで推移する見込みです。

2. 老朽化の状況



全体総括

平成29年度に離島である大島簡易水道を除くすべての簡易水道を上水道に統合したことにより、統合前に比べると経営状況が悪化しています。また、水道施設の老朽化により、水道施設の一元化事業をはじめ、耐震化、老朽管更新事業についても、継続して建設改良事業に投資する必要があります。一方で、人口減少に伴う給水収益の減少が見込まれ、経営状況はさらに厳しくなる見込みです。このような中、令和4年4月より、平均26.2%の水道料金の改定を行い、経営改善に努めています。